

2014年度 プロジェクト実習B 活動報告会

2012年度以来、茨城大学人文学部 **PBL 授業** プロジェクト実習B「さとみ・あいチーム」は、常陸太田市北部の里美地区を主たる学びの場として、多くの方々のご支援に支えられて活動させて戴いています。お陰様で、様々な方向に新たな連携の輪が広がり始めています。里美地区で3回目の活動報告会となる今回は、学生チームの活動だけでなく、広がる連携の輪の全体像をご報告致します。皆様の御参加をお待ちしております。

日時 平成26年 12月7日(日) 13:00-16:10

場所 常陸太田市 里美文化センター (一般の参加歓迎)

茨城大学「プロジェクト実習B」の背景と今後の展開

茨城大学キャリア教育部長 鈴木敦

常陸太田市の支援と今後への期待

常陸太田市少子化・人口減少対策課長 福田洋昭

さとみ・あいチームの軌跡と今年度の活動

プロジェクト実習B さとみ・あいチーム

里美地区地域おこし協力隊の軌跡と今年度の活動

元 里美地区地域おこし協力隊 笹川貴史子
現 里美地区地域おこし協力隊 磯部茉莉

地域に学び地域を支える人材教育

茨城大学 COC 統括機構副機構長 内田聡

ミニ・トークセッション

里美ふるさと振興公社 代表理事 小林信房・総括支配人 豊田紀雄
泉町二丁目商店街振興組合 宮本紘太郎 人文学部副学部長 澁谷浩一

里川カボチャの復元と里川カボチャ研究会

里川町会長 荷見誠

里川カボチャ焼酎とファーム&キッチン

合名会社山口 専務 山口景司

茨城県立水戸農業高等学校の取り組み

水戸農業高等学校教諭 新堀俊博・磯野貴志
生徒 西島美紀・吉井瑞保

地域に「挑戦」を創出しよう！

内閣官房地域活性化伝道師・総務省地域再生マネージャー 中島淳

PBL 授業とは

PBL(Project Based Learning)技法は、昨今その教育効果の高さが注目されているアクティブラーニングの一種であり、「課題解決型学習」と訳されます。茨城大学では、2010年度以来、学生の就業力育成支援を目指す教育プログラム「根力(ねぢから) 育成プログラム」の構築を進めており、その中核として PBL 技法に基づく授業を位置づけています。

会場 常陸太田市折橋町623
常陸太田市 里美文化センター

主催 茨城大学人文学部
常陸太田市

共催 茨城キリスト教大学
常磐大学
茨城大学大学教育センター

お問合せ

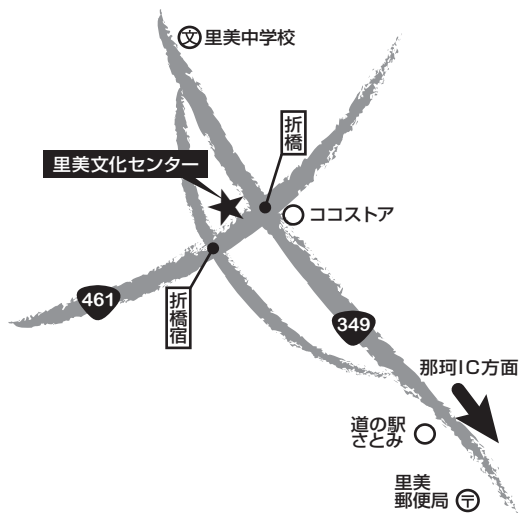
水戸市文京2-1-1
茨城大学人文学部 鈴木敦

☎029-228-8115

Eメール suzukia@mx.ibaraki.ac.jp

活動報告会

- 1 開会挨拶 13:00-13:10
佐藤和夫（茨城大学大学教育センター長）
常陸太田市
- 2 茨城大学「プロジェクト実習B」の背景と今後の展開 13:10-13:20
鈴木敦（茨城大学キャリア教育部長・プロジェクト実習B担当教員）
- 3 常陸太田市の支援と今後への期待 13:20-13:30
福田洋昭（常陸太田市役所少子化・人口減少対策課長）
- 4 さとみ・あいチームの軌跡と今年度の活動 13:30-13:50
プロジェクト実習B さとみ・あいチーム
- 5 里美地区地域おこし協力隊の軌跡と今年度の活動 13:50-14:05
(1) 活動の軌跡 笹川貴史子（元里美地区地域おこし協力隊・茨城大学非常勤講師）
(2) 今年度の活動 磯部茉莉（里美地区地域おこし協力隊）
(3) 定着率100% -第一期・里美地区地域おこし協力隊メンバーの今- 笹川貴史子
- 6 地域に学び地域を支える人材教育 14:05-14:15
内田聡（茨城大学COC統括機構副機構長）
—休憩10分—
- 7 ミニ・トークセッション「里美地区における6次産業化への新たな取組みと域外連携」14:25-14:45
小林信房（里美ふるさと振興公社代表理事・里美山村交流会長）
豊田紀雄（里美ふるさと振興公社総括支配人・里美山村交流会事務局長）
宮本紘太郎（泉町二丁目商店街振興組合）
澁谷浩一（茨城大学人文学部副学部長）
◎ファシリテーター 笹川貴史子
- 8 里川カボチャの復元と里川カボチャ研究会 14:45-15:00
荷見誠（里川町会長）
- 9 里川カボチャ焼酎とファーム&キッチン 15:00-15:10
山口景司（合名会社山口専務）
- 10 茨城県立水戸農業高等学校の取り組み 15:10-15:25
(1) 商品開発 新堀俊博（茨城県立水戸農業高等学校教諭）西島美紀・吉井瑞保（同校生徒）
(2) 研究栽培 磯野貴志（茨城県立水戸農業高等学校教諭）
- 11 地域に「挑戦」を創出しよう！ 15:25-15:40
中島淳（内閣官房地域活性化伝道師・総務省地域再生マネージャー）
- 12 自由討論 15:40-15:55
◎ファシリテーター 鈴木敦
- 13 総括ならびに閉会挨拶 15:55-16:10
佐川泰弘（茨城大学人文学部長）



日時 平成26年
12月7日(日)
13:00-16:10 (12:30 受付開始)

会場 常陸太田市 里美文化センター
茨城県常陸太田市折橋町623

- 車での行き方
- ① 常磐道・那珂インターの料金所を出て、分岐を右方向へ進む。
 - ② 「東海・菅谷市街」の標識に従って県道65号線に入る。
 - ③ そのまま道なりに県道31号線を進み、常磐道の高架をくぐる。
 - ④ 「ひばりヶ丘」交差点を左折。（「常陸太田」方面）
 - ⑤ 国道349号線に突き当たったら左折し、約30km直進。
 - ⑥ 「折橋」交差点を左折すると右手に里美文化センター入口があります。

茨城大学
茨城大学就業力育成支援事業
根力育成プログラム

「プロジェクト実習B」の 背景と今後の課題

茨城大学・大学教育センター
副センター長（キャリア教育部長）
鈴木 敦
suzukia@mx.ibaraki.ac.jp

1

お話の流れ


1. 茨城大学就業力育成支援事業
2. 根力育成プログラムとプロジェクト実習
3. プロジェクト実習B・大まかな流れ
4. 「根力育成プログラム」・「COC地域志向教育プログラム」と「プロジェクト実習B」の位置づけ
5. 今後の展開

2

就職力と就業力・根力(ねぢから)

就職力：
面接対策などの、就職試験突破のための力

就業力：
就職活動時だけでなく、
就職後も活躍して行ける
ための種々の能力の総体



根力：
本学学生が、卒業時に身につけているべき就業力
経済産業省「社会人基礎力」をベースに
茨城大学独自の要素を加えて定義

3

根力の構成要素

能力	説明	定義
1. 基礎的作業力 *この作業の上に「根力」を構築していく	読み 書き 計算 図解能力	文章読解能力、論理的思考力、分析力 文章作成能力、論理的思考力、分析力 基本的計算能力 説明能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力
2. 社会生活力	生活力 人間関係構築力 情報収集力 主体性	自立した生活を実践できる力 生活を営む上で必要な、人間関係を円滑にするための力 生活を営む上で必要な、情報が必要に応じて、どのようにすれば入手できるかを把握する力 物事に適って動く能力
3. 行動力	動機づけ力 実行力 対応力	他人に動機づけできる力 目的を設定し、確実に行動する力 物事に臨まず、疑問・問い・課題に対応する力
4. 思考力	課題発見力 計画力 想像力 課題解決力	課題を分析し、目的や課題を明らかにする力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力 課題が抱える影響、課題解決方法の影響など、状況をイメージする力 課題の本質を捉え、適切な解決方法を提示する力
5. チームワーク能力	気遣い力 傾聴力 柔軟性 状況把握力	自分の意見をわかりやすく伝える力 相手の意見を丁寧に聴く力 意見の違いや立場の違いを理解する力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

4

茨城大学根力育成支援事業


1. 4年一貫の「根力育成プログラム」
2. アクティブラーニング(能動的学習)とリわけ
PBL(課題対応型学習)技法の重視
3. 学生同士の相互教育体制
4. 学生の学びを学生自身と教職員が共有するための電子ポートフォリオシステムの構築
5. 所定単位の修得者に「根力修了証」発行

5

根力育成プログラム

各期の全学目標	根力(ねぢから)育成プログラム
第一段階 根力養成プログラム： 学生の自発的学びを促し、 社会で活躍するための基礎的な能力 =根力を育成するための土台を築く ①フロンティアゼミナール： 高校生から大学へ ②ステップアップ科目群： 自分の学びを構築して 次の段階へ、発展していく	1年 根力養成プログラム ①フロンティアゼミナール
第二段階 根力強化プログラム： 専門知識・実践力を身につけて 社会人として求められる能力を 理解・実践する	2年 根力強化プログラム ②ステップアップ科目群
第三段階 根力実践プログラム： 実際の社会課題を通して 培ってきた力を確認し、 不足点を発見して、自らを高めに行く	3年 根力実践プログラム
	4年 根力実践プログラム

6



プロジェクト実習の位置付け


根力強化プログラム(初めての受講者向け)
「プロジェクト実習**スタッフ編**」

根力実践プログラム(二回目の受講者向け)
「プロジェクト実習**リーダー編**」

根力実践プログラム(三回目の受講者向け)
「プロジェクト実習**メンター編**」


7

**2014年度
プロジェクト実習の構成**



授業科目名	プロジェクト実習 A	プロジェクト実習 B	プロジェクト実習 C	プロジェクト実習 D
テーマ	未分化	地域連携 地域貢献	国際交流 異文化理解	PBL型 インターンシップ
段階	主担当: 神田大吾 副担当: 井澤耕一	主担当: 鈴木 敦 副担当: 杉本 妙子 笹川真恵子	主担当: 杉本妙子 副担当: 神田大吾	主担当: 井澤耕一 副担当: 鈴木 敦
根力強化 プログラム	2-4年 プロジェクト 実習A スタッフ編	プロジェクト 実習B スタッフ編	プロジェクト 実習C スタッフ編	プロジェクト 実習D スタッフ編
根力実践 プログラム	3-4年 プロジェクト 実習A リーダー編	プロジェクト 実習B リーダー編	プロジェクト 実習C リーダー編	プロジェクト 実習D リーダー編
	4年 プロジェクト 実習A メンター編	プロジェクト 実習B メンター編	プロジェクト 実習C メンター編	プロジェクト 実習D メンター編

8



プロジェクト実習B・大まかな流れ(1)


以下、敬称略で失礼致します

2010年・茨城大学、文科省「大学生の就業力
育成支援事業G.P」に採択される

2011年・里美地区に地域おこし協力隊三名
(長島・石川・笹川)着任

- 茨城大学に蜂屋准教授着任
- 里美地区をフィールドとした
授業開設に向けた模索開始
- 常磐大学・常磐短期大学と茨城大学
との間で連携協定締結
- 常陸太田市、総務省「域学連携地域
づくり支援事業」に採択される

9




プロジェクト実習B・大まかな流れ(2)

2012年・事業仕分けにより「就業力G.P」打切

- 蜂屋准教授による
「地域づくりプロジェクト実習」
(里美地区をフィールドとする、
常陸太田市・常磐大学・常磐短期大学
茨城キリスト教大学・茨城大学の
連携授業)開講
(現「プロジェクト実習B」)
- 茨城キリスト教大学と茨城大学の間で
連携協定締結
- 常陸太田市、総務省「過疎集落等自立
再生緊急対策事業」に採択される

10




プロジェクト実習B・大まかな流れ(3)

2013年・茨城大学、文科省「産業界のニーズに
対応した教育改善・充実体制整備事業」
に採択される

- 三大学による活動を拡充
- 茨城大学の要請を受け、常陸太田市が
地域おこし協力隊に「大学院生枠」を新設
- 蜂屋准教授、宇都宮大学に転出
- 後任として、鈴木がプロジェクト実習
A・Bの担当教員を兼任
- 常陸太田市立里美中学校との連携事業実施
- 里川カボチャがNHKテレビ等に紹介され
好評を博す
- 常陸太田市「大学等連携事業」予算新設

11



プロジェクト実習B・大まかな流れ(4)

2014年・2013年度プロジェクト実習B活動報告会開催

- 里美地区地域おこし協力隊三名、
任期満了に伴い退任
- 地域おこし協力隊二名(磯部・田中)
地域おこし協力隊アーティスト・イン・
レジデンス一名(末石)着任
- 元地域おこし協力隊員一名(笹川)に
本学非常勤講師(プロジェクト実習担当)
を依頼
- 里美ふるさと振興公社・茨城県立水戸農業
高等学校・泉町二丁目商店街振興組合始め
諸組織との間で連携を拡大

12

プロジェクト実習B・大まかな流れ(5)

2014年・茨城大学、文科省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(テーマB)」
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sangyou/
に採択される

- ・三大学による活動に加え、茨城県立水戸農業高等学校との連携を開始
- ・茨城大学「地(知)の拠点整備事業(COC)」に
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/
採択される
- ・「先進地実地研修」を実施
(於：山形県最上郡金山町)
- ・2014年度プロジェクト実習B活動報告会開催

13

「根力育成プログラム」・ 「COC地域志向教育プログラム」と 「プロジェクト実習B」の位置づけ

根力育成プログラム：

根力育成を目指して各種授業を設定
プロジェクト実習には「さとみ・あいチーム」の活動を
筆頭に、地域連携をテーマとするプロジェクトが存在

COC地域志向教育プログラム：

地域課題と向き合う各種授業を設定
結果的に根力育成に有効

*根力育成からスタートして地域につながるのか
地域につながることからスタートして根力育成に
至るのか(タマゴとニワトリ)

14

今後の展開

1. 「立ち上がり」から「安定継続」へ
補助金は立ち上げ予算
 - ・「根力育成プログラム」全体の安定継続
 - ・常陸太田市・里美地区との連携発展
 - ・「プロジェクト実習B」の三大学連携体制の安定強化
 - ・茨城県立水戸農業高等学校との連携発展
2. COC事業との連携と棲み分け
3. 「テーマB」PBL型・中長期・県単位での
インターンシップ拡充体制の確立

ご支援に心より感謝申し上げますとともに
今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます

15

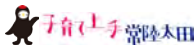
ご清聴感謝申し上げます

鈴木敦
suzukia@mx.ibaraki.ac.jp

16

常陸太田市の人口減少対策の現状と課題

平成26年12月7日 常陸
太田市政策企画部
少子化・人口減少対策課
kikaku3@city.hitachiota.lg.jp



茨城県常陸太田市の概況

【位置】
茨城県最北部
(東京から自動車で約120分)

【地域の状況】
3つの過疎地域(金砂郷・水府・里美)を有する

【人口】
53,309人(H26.4.1現在)

【面積】
312.01km²(県内最大)



【主な特産品】

常陸秋そば、コシヒカリ、巨峰、梨など

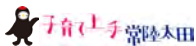


【主な見所】

0西山荘(水戸黄門の隠居所)

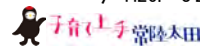
0竜神大吊橋

(歩行者用として本州一の長さ)



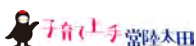
常陸太田市の大きな課題

- 震災からの復旧・復興 公共施設等の復旧はほぼ終了 観光客の回復(※日本一のパンジージャンプ設置)
- 少子化・人口減少対策
引き続き少子化及び人口の減少が進行
 - 常住人口
H16: 60,806人
今 H26: 53,309人(H26.4.1現在)
 - 高齢化率(65歳以上人口)
H16: 25.5%
今 H26: 32.2%(H26.4.1現在)



人口減少に対する基本的な考え方

- 人口を維持することが、地域の活力を維持することにつながる。
- 人口減少をあるがままに受け入れるのではなく、人口をどのように維持し又は増加させるかを真剣に考え、対策を講じる必要。
- 若者を対象とした定住への経済的支援や子どもを産み育てやすい環境の整備により他地域から人を呼び込めば、短期的には人口の奪い合いとなる可能性。
- しかし、合計特殊出生率の向上を目的とした各種の若者支援策は、住民の子どもを産み育てようという意欲を高めるだけでなく、同様の取組みが他自治体へも広がれば、長期的に日本全体の出生数の増加につながる。
- 当市としても、茨城県及び日本全体の人口の維持に寄与するという観点で積極的な取り組みを進める必要。



社会保障に対する国の方針

- 子育て中の若い人々が日々の暮らしに安心感を持ち、納得して社会保障制度に積極的に参加できるように、これまでの「給付は高齢世代中心、負担は現役世代中心」という構造を見直し、**給付・負担の両面で世代間の公平が確保された制度**へ転換することを目指す。
- また、世代間の公平だけでなく、**世代内の公平**も重要であり、これまでの「年齢」ではなく「**負担能力**」とし、すべての世代が相互に支え合う仕組みとしていくべきである。
- 少子化の問題は、社会保障全体にかかわる問題であり、子育て支援は、社会保障の持続可能性や経済成長にも資するものである。
- 少子化対策は、国・都道府県・市町村・企業が一体となって推進すべきであり、とりわけ地域の実情に即した施策の展開が重要であることから、市町村の主体的・積極的な取り組みが求められる。



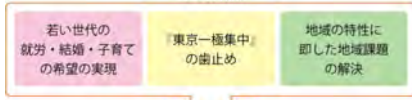
日本創生会議の提言

日本創生会議の提言 今女性の数の減少・消滅可能性市町村

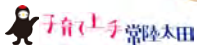
まち・ひと・しごと創生本部

国民が誇りを持ち、将来に夢や希望を持てる、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを進める

3つの視点

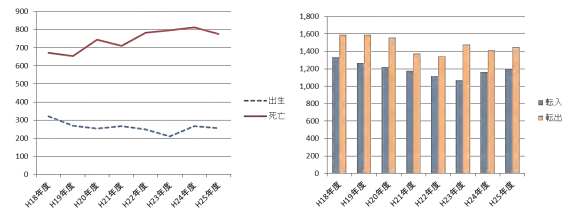


魅力あふれる地方を創生

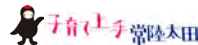


0

当市の出生・死亡・転入・転出の推移(年度別)



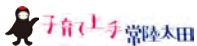
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
出生	320	268	254	266	249	209	267	255
死亡	672	653	744	710	783	797	813	775
転入	1,332	1,265	1,219	1,176	1,113	1,066	1,164	1,201
転出	1,587	1,590	1,557	1,375	1,342	1,477	1,410	1,449



0

当市として少子化・人口減少にどう対処するか

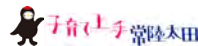
- 一定程度の人口減少は避けられない
- 短期的には、社会減(転入-転出)の抑制を図り、長期的に出生数を増やす施策の展開が必要
- 転出入の多くは、20~30代の若者世代が、周辺6市村(水戸、日立、ひたちなか、那珂、東海、常陸大宮)へ移動
- 20~30代の若者世代が魅力を感じるまちづくりを推進することで若者世代を呼び込む
- 具体的には、就労、結婚、妊娠・出産や子育てのしやすい環境を総合的に整備
今(長期的な出生率の向上に寄与)



0

若者世代の主なターゲットは

- 女性** (女性 > 男性)
【理由】 1) お母さんの候補者
2) 女性は強い!
- 仕事を持つ若者(仕事は他市町村でも可)
他市町村の役所職員
日立製作所などの一般サラリーマン
芸術家やITノマドワーカー



0

転入促進・転出抑制関係(短期的施策)

新婚家庭の家賃助成(月2万円)	
住宅取得促進助成(新築:20万円)	定住促進
常陽・筑波銀行『常陸太田市子育て支援住宅ローン』(店頭金利企1.6%)	
民間賃貸住宅建築促進助成(固定資産税5年(建物))	
市営住宅の入居要件緩和(市外からの子育て世帯等)	受け皿整備
『子育て上手常陸太田』(パンフ・広告)による市内外へのPR	
『子育て上手常陸太田推進隊』の組織化と口コミによるPR	P R
など	



0

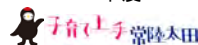
新婚家庭の家賃助成(H22~)

市内の民間賃貸住宅に居住する新婚家庭に対し、最大36ヶ月、月2万円の家賃助成。当初は月1万円の助成を、平成24年度より月2万円に増額。併せて、**最大12万円の前払い助成金も制度化。**

申請者の約7割が、当制度がきっかけとなり常陸太田市に転居したと回答。

【申請件数】

H22年度	35件(市内42名、市外32名)
H23年度	32件(市内51名、市外18名)
H24年度	78件(市内101名、市外76名)
H25年度	103件(市内118名、市外107名)



0

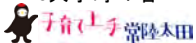
新婚家庭の家賃助成(H22～)

【助成終了者の転出先調査結果】* H26年3月末現在
助成終了者62名(うち要件不備による対象外4名)
⇒対象58名

◎常陸太田市 51名(市内割合:87.9%)

内訳
-住宅を新築(取得) 15名
-実家へ 7名
-市営住宅、県営住宅へ 10名
-一人(継続) 19名

○ひたちなか市 2名 ○水戸市 1名
○日立市 2名 ○常陸大富市 1名
○大子町 1名



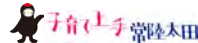
0

住宅取得促進助成(H25～)

平成25年1月2日以降に、市内に住宅を取得した子育て世帯等に対し、最大20万円を助成。

【助成額】
新築住宅(築1年未満) 20万円
築後1年以上10年未満の住宅 15万円
築後10年以上の住宅 10万円

【申請件数】
123件(H26年3月末現在)



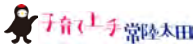
0

定住促進助成(H22～H24)

平成22年1月2日から平成25年1月1日までに、市内に新築、増築、中古住宅を取得した子育て世帯等に対し、家屋に係る**固定資産税の半額相当額を最大3年間助成**。

【申請件数】
H 22年度取得(H23年度課税) 97件
H 23年度取得(H24年度課税) 101件
H 24年度取得(H25年度課税) 123件

※ 地方税法に基づき、一定の要件を満たす新築家屋の固定資産税は、一戸当たり120平方メートルを上限として、初年度から3年間、半額に軽減される。よって、市の制度を併用すると、家屋に係る**固定資産税が3年間実質免除**となる。



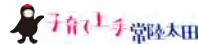
0

子育て世帯等増改築助成(H26～)

平成26年4月1日以降に、市内で住宅を増改築した子育て世帯等に対し、最大20万円を助成。
※3世代同居を促進し、働く母親の就労や仕事と家庭の両立支援を後押しする。

【助成額】
増改築費用100万円以上 20万円
増改築費用100万円未満 10万円

【申請件数】
1件(H26年8月末現在)



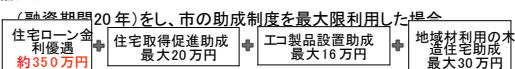
0

常陽銀行「子育て支援住宅ローン」(H25～)

市の住宅取得促進助成金の交付対象者に対し、**住宅ローンの金利を店頭金利から1.6%引き下げ**。融資金額は最大1億円、融資期間は最長35年。

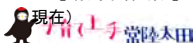
【制度利用のメリット】

「常陸太田市子育て支援住宅ローン」で2,000万円の借入れ



→ **最大約416万円のメリットがある**

【融資件数】 4件(H26年3月末現在)



0

民間賃貸住宅建築促進助成(H25～)

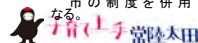
平成25年1月2日以降に、市内に集合賃貸住宅(アパート等)を建築した個人又は法人に対し、固定資産税及び都市計画税の負担を軽減するための助成金を交付。

【助成額】
固定資産税及び都市計画税が課税される初年度から**5年間助成**

新婚世帯又は子育て世帯の入居率	助成額
50%以上	固定資産税額及び都市計画税の50%相当額
50%以下	固定資産税額及び都市計画税の30%相当額

【建築数】 5棟(30戸)

※ 地方税法に基づき、一定の要件を満たす新築家屋の固定資産税は、一戸当たり120平方メートルを上限として、初年度から3年間、半額に軽減される。市の制度を併用すると、入居率50%以上の場合、**固定資産税が3年間実質免除**となる。



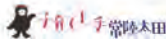
0

市営住宅の入居要件緩和(H24～)

「市内に住所又は勤務場所があること」が入居要件であったが、「中学校卒業前の子がいる世帯」「新婚世帯」「過疎地域(金砂郷地区、水府地区、里美地区)の市営住宅入居申込者(単身者は除く)」については収入月額が214,000円以下であれば、市外の方でも入居申込可能に。

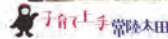
【要件緩和後の入居状況】※H24年10月1日～H26年3月末
13世帯

転入前の住所	世帯数	人数	世帯数	人数	
日立市	5世帯	14人	小美玉市	1世帯	2人
那珂市	2世帯	8人	常陸大宮市	1世帯	2人
高萩市	1世帯	3人	ひたちなか市	1世帯	3人
東海村	1世帯	2人	計	13世帯	36人
水戸市	1世帯	2人			



「子育て上手常陸太田」によるPR(H24～)

「子育て上手常陸太田」のパンフレット配布、広告掲載により、市の子育て支援施策を市内外にPR。デザインは、女性に手にとってもらえるように、子育て中の女性の意見を考慮し決定。

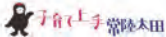


「推進隊」の組織化と口コミによるPR(H25～)

隊員には、「子育て上手常陸太田」のパンフレットと名刺を配布し、これらを活用して口コミで市の子育て支援施策をPRしてもらう。



ついても意見聴取。



「推進隊」の組織化と口コミによるPR(H25～)

市の子育て支援について、口コミで市内外にPRしてもらうため、平成25年2月、「子育て上手常陸太田推進隊」を発足。市民を中心に75名を推進隊として委嘱。

【推進隊員数】 88名(H26年3月末現在)

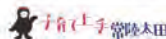


少子化の現状と考え方

- 少子化とは何か？
出生率が人口置換水準(2.07)を長期的に下回る状態
日本は1975年ごろから少子化(1975:1.91, 2011:1.39)
茨城県/1.43(2012)
常陸太田市/1.10(2013)
- 出生率(子供の数)の考え方

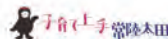
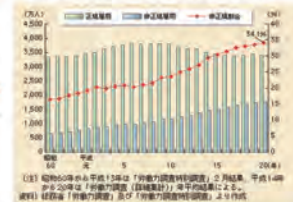
【合計特殊出生率とは？】
1人の女性が一生に産む子供の平均数(未婚者も含まれることに注意)

「子供の数」=「結婚する人の割合」×「夫婦の子供の数」



少子化の原因①

- 「結婚する人の割合」の低下
- 若者の雇用の劣化 【参考】正規雇用者と非正規雇用者の推移
- 非正規雇用の増加
- 給与所得の減少
- 出会いの場の減少 など



出会いの場の減少

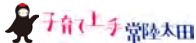
見合いが減り、自ら積極的にコミュニケーションをとらなければ出会いの機会が生まれない状況。

調査別に見た、夫婦が出会ったきっかけの構成

調査 開始年次	総数	職場や 仕事で	友人・兄弟 知人を通じて	学校で	家庭系					見合い・結婚 商入	その他・不詳
					近なかや 隣家で	サークル・ クラブ、習 い事で	アルバイト で	近なじみ・ 知人	近 所		
第6回調査 (1967)	100.0%	25.3	20.5	6.1	8.2	5.8	-	2.2	29.4	2.5	
第9回調査 (1972)	100.0%	31.5	22.4	7.0	6.3	5.3	-	1.5	23.3	2.7	
第10回調査 (1974)	100.0%	35.0	22.3	7.7	6.2	5.5	4.2	1.8	15.2	2.0	
第11回調査 (1976)	100.0%	33.5	27.0	10.4	5.2	4.8	4.7	1.5	9.7	3.1	
第12回調査 (1978)	100.0%	32.9	29.2	9.3	5.4	5.1	4.8	1.1	6.9	5.2	
第13回調査 (1980)	100.0%	29.9	30.9	11.1	4.5	5.2	4.3	1.0	6.4	6.8	
第14回調査 (2004)	100.0%	29.3	29.7	11.9	5.1	5.5	4.2	2.4	5.2	6.8	

※対象は、各調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦。見合い・結婚とは出会いのきっかけが「見合いで」、「結婚相談所で」の結婚。第6回調査は「アルバイト」でを除外している。集計母体数：第6回（1,290）、第9回（1,421）、第10回（1,525）、第11回（1,504）、第12回（1,488）、第13回（1,076）、第14回（1,136）。

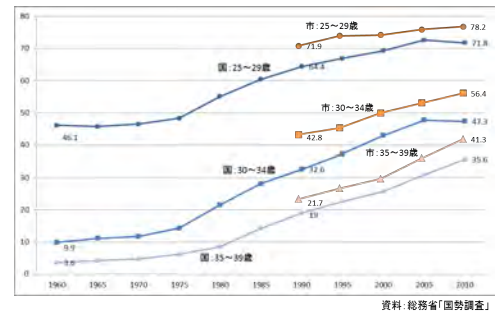
資料：厚生労働省「出生動向基本調査」



0

【参考】年齢別未婚率の推移（男性）

※ 常陸太田市は全国平均よりさらに高い



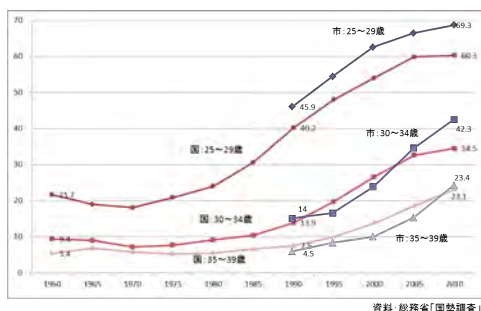
資料：総務省「国勢調査」



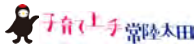
0

【参考】年齢別未婚率の推移（女性）

※ 常陸太田市は全国平均よりさらに高い



資料：総務省「国勢調査」



0

結婚する人を増やすことを目的とした施策

- 》 **雇用の安定**
企業誘致等（若者の雇用を守る施策は国の動きも不十分）
- 》 **出会いの場の創出**
結婚相談センター「YOU愛ネット」の運営
出会いのイベント開催（年6回）
結婚活動支援事業補助金（婚活の場への補助）



0

企業誘致

0 企業等立地奨励金

企業等が工業団地に立地した場合、固定資産税及び都市計画税相当額を、3年を限度に奨励金として交付。

0 企業等拡大再投資奨励金

企業等が工業団地において拡大再投資した場合、これにより取得した固定資産に係る固定資産税及び都市計画税相当額を、3年を限度に奨励金として交付。

0 企業等立地雇用奨励金

工業団地に立地する対象企業等が、新規雇用者を1年以上継続して雇用する場合、新規雇用者一人当たり10万円を、3年を限度に交付。

【誘致状況】

- ー常陸太田工業団地 17社（完売）
- ーハイテクパーク金砂郷工業団地 7社（完売）
- ー宮の郷工業団地 12社（10区画分譲中）



0

結婚相談センター「YOU愛ネット」の運営（H22～）

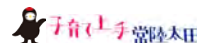
専任の相談員（2名）が、結婚希望者、独身の子をもつ親からの相談に対応し、**お相手探しからお見合いまでサポート**。
出会いのパーティーや交流会、親の集い等のイベント情報の案内。

【運営状況】

利用日/月・水・木・金・土曜日（木・金は予約受付のみ）
利用時間/午前11時～午後6時

【実績】* H26.3月末現在

会員登録者数 380名（男性244名、女性136名）
成婚数 53組（H22: 4組、H23: 12組、H24: 16組、H25: 21組）



0

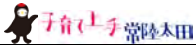
出会いのイベントの開催(H19~)

NPO法人に委託し、年6回、交流会を開催。

【H25年度実施イベント(参加者数、カップル成立数)】

- ・縁結び祈願&笠間で焼き物つくり (男14名・女19名、7組)
- ・石釜ピザ焼き&流しそうめん (男17名・女18名、6組)
- ・ゴルフで出会いを (男5名・女2名、0組)
- ・滝川溪谷滝めぐり&BBQ (男14名・女9名、7組)
- ・クリスマスパーティー (男15名・女11名、0組)
- ・イチゴ狩り&お食事会 (男16名・女16名、9組)

参加者数:男性81名・女性75名—カップル成立数:29組—



0

結婚活動支援事業補助金(H24~)

結婚活動を支援するために、出会いの場として交流会やセミナー等の事業を実施する団体に対し、その開催にかかる費用を補助。

【補助金額】

- 参加者50人以下 5万円以内
- 参加者50人以上 10万円以内

【H24年度実施事業】

- 男組婚活事業—花嫁修業村 一太田コン
- 商工青年部主催お見合いパーティー
- 男性向けセンスアップセミナー

【H25年度実施事業】

- ハッピー婚活—商工青年部主催お見合いパーティー
- どうも婚活



0

少子化の原因②

- ・ f夫婦の子供の数jの低下
- ・ **子育て全般の経済的負担の増加**(雇用の劣化の反射)
教育に係る経済的負担
子育てに係る経済的負担
今希望の数だけの子供を持ってない
- ・ **女性の両立支援策の不足(特に非正規雇用)** など



0

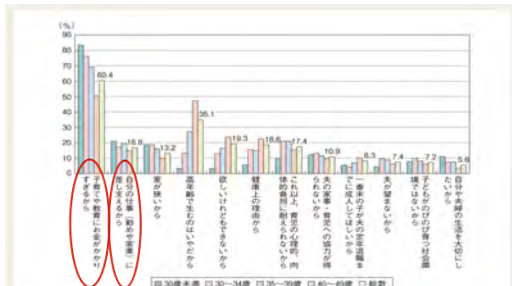
【参考】平均理想子ども数と平均予定子ども数の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査(夫婦調査)」(2014年)
注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和として算出。総数には結婚継続期間不詳を含む。各調査の年は調査を実施した年である。

0

【参考】妻の年齢別にみた理想の子ども数を持たない理由



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査(夫婦調査)」(2014年)
注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦。予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦の割合は32.7%。

0

平均世帯年収と教育費の割合の推移

世帯収入が減少し、教育費が高止まりしているため、世帯年収に占める教育費の割合が増加し、負担増大。



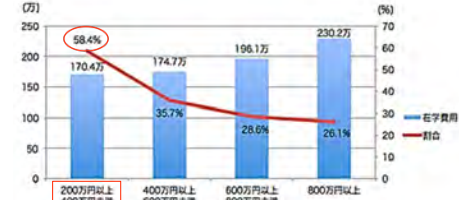
資料：日本政策金融公庫「平成24年度教育費負担の実態調査結果」



0

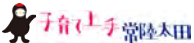
在学費用と収入に占める教育費の割合(年収別)

年収400万円以下の割合が、51.7%(H4)→59.2%(H23)に増加。つまり、約6割の人が、教育費が収入の58.4%を占めることになる。



ここでいう在学費用とは、平成24年4月から3月までの1年間に、小学校以上の学校(大学を含む)に在学中の子どもにかかる費用の見込額。学校教育費(授業料、通学費、その他教科書・教材費等)と家庭教育費(学習費・家庭教師の月謝、通信教育費、参考書・問題集の購入費といった補習教育費とおいことにかかる費用)をあわせたもの。

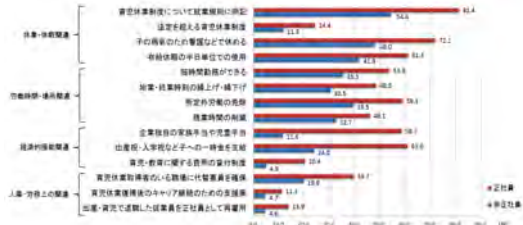
資料：日本政策金融公庫「平成24年度教育費負担の実態調査結果」



0

両立支援制度の導入状況

女性労働者の54.5%が非正規雇用(H24)という状況のなかで、正社員に比べて非正社員の両立支援制度は不十分。両全項目で、非正社員の制度導入割合は、正社員より低い。



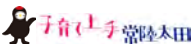
資料：内閣府政策統括官「企業における子育て支援とその導入効果に関する調査研究報告書」



0

夫婦の子供の数を増やすことを目的とした施策

- › **子育て等に係る経済的負担の軽減**
 - 不妊治療費助成(10万円を限度)
 - 妊産婦医療費助成(産婦人科以外の疾病も対象)
 - 乳児のおむつ購入費助成(2万円)
 - 保育園・幼稚園保育料の減免(第3子は無料)
 - 乳幼児・小中学生医療費助成(中学3年生まで) など
- › **両立支援**
 - 公立保育所の入所要件の弾力化
 - 公立保育所の民営化の推進
 - 放課後児童クラブの全域設置 など



0

不妊治療費助成(H21～)

不妊治療費のうち、医療保険が適用されず、高額な医療費がかかる体外受精及び顕微授精について、その費用の一部を助成。

+

【助成額】

1回の治療につき10万円を限度に、1年度あたり2回まで、通算5年間助成。

(県の不妊治療費助成事業による助成を受けている場合は、県助成額控除後の治療費に対し助成。)



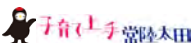
0

妊産婦医療費助成(H24～)

県の医療福祉費支給制度(マル福)の対象外である妊産婦の医療費を助成。

助成対象を産婦人科での診療だけでなく、通常疾患(歯科、眼科、皮膚科等)にまで拡大。

さらに、妊産婦の所得制限を撤廃。



0

乳児のおむつ購入費助成(H21～)

乳児一人につき2万円を上限に、おむつ購入費を助成。

【申請件数】

H 21年度	64件
H 22年度	275件
H 23年度	254件
H 24年度	244件
H 25年度	263件

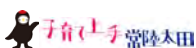


0

保育園・幼稚園保育料の減免(H22～)

第3子以降児が、保育園及び市立幼稚園に入園する場合、**保育料無料**。

また、保育園や市立幼稚園に2人以上入園している場合、**2人目の保育料を月3千円を限度に減額**(保育園は3歳未満児に限る)。



0

乳幼児一小学生医療費助成(H21～)

県の医療福祉費支給制度(マル福)の対象年齢は、0歳～小学6年生までだが、市では、適用範囲を拡大し、**中学3年生までの医療費を助成**。

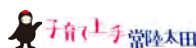
また、所得制限により県のマル福非該当となった児童の医療費を助成。

5

【対象者の自己負担額】

ー外来1日600円(月2回を限度)

ー入院1日300円(月3,000円を限度)



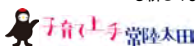
0

公立保育所の入所要件の弾力化(H24～)

保護者が求職中の場合の保育所の入所について、国は、特に基準を定めず、各自治体に配慮を求めている。市では、平成24年度から期間を**3ヶ月**と明確化して求職中の入所を認めている。

(日立市、ひたちなか市など近隣市町村では、期間を1、2か月としており、他市町村と比較して、当市は最大限配慮しているといえる。)

※なお、H27年4月から『子ども・子育て関連3法』に基づく『子ども・子育て支援新制度』が始まるため、保育の考え方も新しくなる。



0

公立保育所民営化の推進(H25～)

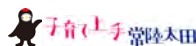
現在、市では、**市立愛保育園の民営化を推進**。

ただし、民営化によって保育環境が急に変わることを避けるため、まずは指定管理者制度を導入し、その後民営化へと進める方針。

<

【保育所民営化により期待される効果】

- ー延長保育、休日保育、一時保育などサービスの向上
- ー対応、判断の迅速化
- ー受入児童数の増加(待機児童の解消)



0

放課後児童クラブの全域設置(~H26)

就労などの理由により、昼間保護者のいない児童(低～中学年)の、生活や遊び等の学びの場として、平成26年度以降、放課後児童クラブを**市全域(全小学校区(13区))**に設置。

@

【開設時間】

・下校後～18:30(学校の授業日)

・7:30～18:30(夏休みなどの長期休業中、県民の日、学校の創立記念日、行事の振替休日)

・8:00～18:00(土曜日)

【利用料】月5,000円



0

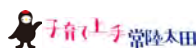
過疎地域における定住促進方策

- ・地域おこし協力隊の活用(H23.4～)

過疎化が進行する里美地区、金砂郷地区に、地域おこし協力隊を配置(平成26年4月以降 里美:2名、金砂郷:1名)し、定住化を進める。併せて、地域資源の発掘や地域の魅力の情報発信等により、交流人口の増加を図る。

- ・Hitachiota Artist in Residence(H25.11～)

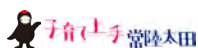
アーティストが、市の過疎地域に住みながら芸術活動を行うことによって、地域の活性化を図るとともに、定住化を進め、地域内外との交流を促進。里美地区に1名、水府地区に2名を配置。



0

今後の課題と対応

- ・ 転入促進・転出抑制に係る施策の効果の測定 出生率の向上という短期的に成果が出ない課題に粘り強く取り組んでいけるのかどうか
- ・ 一市町村だけでは解決ができない問題も多い。国や県も巻き込んで取り組む必要性。



0

視察、講演の状況

少子化—人口減少対策に関する視察受け入れ状況

- 常陸大宮市 (H24.7.3) 千葉県匝 一宮城県栗原市 (H26.1.24)
- 碓氷市 (H25.5.27) 茨城町 一北海道旭川市 (H26.1.29)
- (H25.6.5) 兵庫県加西 一岩手県花巻市 (H26.2.4)
- 市議会 (H25.7.18) 新潟県上越市 一長野県東筑摩郡村長会 (H26.4.16)
- 議会 (H25.8.2) 大洗町 一宮崎県高千穂町議会 (H26.4.17)
- (H25.8.6) 福島県 一熊本県水俣市議会 (H26.7.16)
- 塙町議会 (H25.10.1) 山 一宮城県議会 (H26.7.23)
- 形県議会 (H25.10.11) 一山形県議会 (H26.7.29)
- 東京都秋川市町村議会 一夫町 (H26.7.30)
- 正副議長会 (あきる野市 (H25.10.23)) 一常陸大宮市 (H26.8.22)
- 静岡県伊豆の国市議会 一鳥取県大山町 (H26.9.17)
- (H25.11.13) 茨城町議会 一福井県大野市 (H26.9.30)
- (H25.11.13) 一桜川市 (H26.10.3)



0

【補正予算】「域学連携」地域活力創出モデル実証事業

地域と大学等の連携による地域力の創造に資する人材の育成と自立的な地域づくりを推進するための仕組みを構築し、地域活性化を通じた日本経済の底上げを図る。

1. 趣旨

地域再生を積極的に推進するため、地域と大学の協働プロジェクトにより、大学の秋入学導入にもならみながら、地域力創出人材の育成と自立的な地域づくりを推進する仕組みの構築を図る。

また、地域がそれぞれの特色を持って活力ある地域づくりを進めること、日本全体の経済底上げにつながるから、本事業を通じて、地域コミュニティの再生、地域資源の発掘、地域での産業創出、観光を通じた地域活性化等を図ることで、自らの発想で行う特色を持った地域づくりを支援する。

2. 事業の概要

○事業実施者

地方公共団体、大学、地域住民、NPO法人、地元企業等による連携主体

○支援対象事業

・地域と大学等の連携主体による地域力創出人材の育成と自立的な地域づくりを推進するためのプログラムの構築及び具体の事例による実証(モデル実証事業)

○事業例

- ・地域資源を活かした事業アイデアを大学生から募り、地域おこし協力隊も活用しながら具体の事業化を図る。
- ・大学生が古民家再生、里山整備等に携わり、その成果を活かしたグリーンツーリズムの推進による交流人口の増大を図る。

3. 所要経費

210百万円(モデル実証15箇所程度)



地域実践活動のノウハウ、自治体とのネットワークを活用

総務省

マッチング
モデル地域選定

総合調整を行う
コーディネーターを登用

地方公共団体

地域力創出人材の育成
自立的な地域づくり

「域学連携」地域活力創出モデル実証事業

実際の地域での活動を豊富に盛り込んだプログラムを構築

過疎地域
等と連携

合宿
(10日間程度)



地域おこし活動

地域住民



観光振興

地元企業等

大学の秋入学
導入に向けた環
境整備も視野に

「域学連携」地域活力創出モデル実証事業の概要（案）

採択箇所数等

- 中期滞在型（1～2ヶ月程度）＋合宿型（10日間程度×3回以上）：2,000万円（上限）
- 中期滞在型（1～2ヶ月程度）のみ：1,500万円（上限）
- 合宿型（10日間程度×3回以上）のみ：500万円（上限）

合計15箇所程度

実施主体

- 地方公共団体、大学、地域団体、NPO等を構成員とする「実行委員会」組織
- ※ モデル調査費交付先は実行委員会の代表たる地方公共団体

採択基準

- 大学のない過疎地域等に首都圏や京阪神等の大学から、アウトリーチで20～30人程度の学生が現地に宿泊して地域実践活動に取り組むこと（地元大学が日帰り出来るエリアで行うフィールドワーク等は対象外）
- 大学が組織として単位認定するカリキュラムを構築すること
 - ・ 中期滞在型は計8単位相当、合宿型は2単位相当×3回以上の地域実践活動を盛り込んだカリキュラム
 - ・ ただし、平成26年度以降に所定の単位数が取得可能なカリキュラムの構築が見込まれていれば、平成25年度は、少なくとも2単位以上取得可能であれば対象とする。
- 複数大学の連携も想定。また、単位互換や入学前単位認定の対象となる取組を期待
- 宿泊やサポートスタッフも等も含め受け入れ体制が整っていること（中期滞在型では総合調整を行うコーディネーターの登用も可能）
- 継続的に実施可能なもの（当事業の実施期間限りの取組は対象外）

モデル調査費の対象となる経費

（※ 支払いは精算払い）

- 教員など実践活動関係者に係る宿泊費（学生の宿泊費については、会館等で宿泊するための寝具等のレンタル料、農家民泊のために農家に支払う謝金等を対象、ホテル等は対象外）
- 教員、地方公共団体職員など実践活動関係者による事前調査・打合せに係る旅費や現地調査に係る旅費（個々の学生の大学の大学等から現地への往復の旅費は対象外。ただし、バスをチャーターし送迎する経費は対象）
- 借損料（バスや備品等の借上料）、講演会・研修会・報告会などの開催に要する会場費・機材借上費、協力者謝金、通信運搬費、消耗品費、資料作成費、プログラム策定費
- コーディネーター経費（中期滞在型に限る）

※ 懇親会会場費や飲食に要する経費、収益事業の原材料費、備品購入費、その他公費負担が適当でないと考えられる経費は対象外

- 事業報告会に出席するための旅費、宿泊費、出席者謝金等

スケジュール

- 平成24年度補正予算成立後に公募（3月18日締切予定） → 平成24年度内に事業採択 → 平成25年度当初より事業開始

2014年度プロジェクト実習B さとみ・あい活動報告

井上紗希 千葉美香 南陽子 箭内淳美
板垣里沙 岡本 萌 伊藤美保子

もくじ

- チームの概要、経緯
- 今年度の活動について
- 活動目標、新たな取り組み
- 活動内容、成果
- 反省点
- 学んだこと
- 今後の展望

チームの概要

・茨城大学人文学部のプロジェクト実習という授業の中で結成されたプロジェクトチーム

・茨城県常陸太田市
里美地区を
フィールドとして活動

・里美での活動は
今年で3年目



プロジェクト実習の授業の中で「地域おこしがしたい！」という意思を持った人が集まってグループを作る



蜂屋大八先生から「里美地区で活動しないか」という提案

実際に里美地区を訪れて里美の魅力を知る



もっと多くの人に里美の魅力知ってもらいたい！！
若い力が欲しい地域・地域のために活動したい大学生

活動を
開始

地域のひととの関わりが楽しい！
いつも優しく迎えてくれる地域のためにもっと何かしたい！

活動の
継続

今年度の活動について

里川カボチャの
商品開発がしたい！



レストランと
コラボしてみたい！

他のチームと一緒に
何かやりたい！

今年度の活動目標

①学生視点で里美をPRする

- 広報の強化
- ・イベント出店
(ファーマーズマーケット、茨苑祭)

②里美をより元気な地域にする

- 里美中学校との交流
- ・里川カボチャ栽培、地域の方々との交流

今年度の活動

- 6月8日 第1回里美訪問(カボチャの種まき)
- 7月6日 第2回里美訪問(カボチャの苗植え)
- 8月23～25日 8月合宿
- 9月28日 水戸まちなかフェスティバル
- 10月19日 里川カボチャ収穫祭
- 11月15～16日 茨苑祭

今年度の新たな取り組み

- ・2泊3日の里美合宿
- ・同じプロジェクト実習で活動する異文化交流チーム(ICEチーム)と共同で、留学生を交えての里川カボチャの収穫
- ・水戸農業高等学校と共同で里川カボチャの商品開発
- ・里美に暮らす方々を取り上げたPR冊子の作成

合宿(8/23～25)

1日目

- ・里川カボチャ畑の手入れ(草引き)
- ・里川カボチャ生産者の方々へのインタビュー
- ・えみの里のお祭りのお手伝い



2日目

- ・里美地区散策
- ・水戸農業高校とのミーティング



3日目

- ・里美中学校との打ち合わせ
- ・水戸まちなかフェス打ち合わせ
- ・里美地区在住女性への取材



成果

- ・里美の魅力を肌で感じることができた
- ・カボチャ畑の手入れができた
- ・里美の人々と交流できた
- ・メンバーの仲が深まった



水戸まちなかフェスティバル(9/28)



成果

- 野菜の完売
- 多くの人に野菜やさとみ・あいの活動をPRできた
- 里美ふるさと振興公社とのつながりができた
- 他のチームとの交流のきっかけとなった



里川カボチャ収穫祭(10/19)

茨城大学
(さとみ・あいチーム、ICEチーム、留学生)
常盤大学、茨城キリスト教大学、水戸農業高校
計30名



収穫したカボチャ
とひとくちカボチャ



異文化交流ゲーム



成果

- 他大学生・留学生との交流が出来た
- ICEチームと協力してできた
- 里川カボチャの魅力を多くの人にPRできた
- 「田舎」の魅力を再発見してもらったきっかけとなった



茨苑祭(11/15,16)

屋外企画:
水戸農業高校食品化学部とコラボした里川カボチャのタルト・里美飲むヨーグルトを販売

屋内企画:
パネル・パンフレット等の展示

- 里美で作られたものを使った商品の販売
(里川カボチャのタルト、里美のむヨーグルト)
→タルトは主に水戸農業高校で作成
- パッケージのシールを作成
- 里美パンフレットの配布、ラジオでPR
- お客様と会話を交えての接客



成果

- 両日即完売!
- 接客や展示、ラジオなどにより、世代を問わず、様々な人に里美をPRすることができた
- 里美のものを使った商品を提供し、そのおいしさを知ってもらえた
- 自分たちの活動についても知ってもらえた
- 里美へ足を運ぶきっかけを作ることができた



かぼちゃフェス



常陸太田ファーム&キッチンの一環として開催されたかぼちゃフェスで、常陸太田市内の15の飲食店で里川カボチャを使ったオリジナルメニューを考案、期間限定で商品として提供

さとみ・あいは生産者として関わる
↓
「レストランとのコラボ」を達成!!

里川カボチャの
商品開発がしたい!

実現することが
出来た!



他のチームと一緒に
何かやりたい!

反省点

- イベントの準備が遅れてしまったので、
早め早めに行うべきだった
- メールの確認・情報共有が甘かった
- 役割分担があいまいだった

学んだこと

- 目的を持って行動すること、
目的を見失わないこと
- 活動していく中で出会った方々との
関係の大切さ
- 振り返りの大切さ

今後の展望

- **里川カボチャを多くの人に知ってもらうための活動**
来年度以降も水戸農業高校との商品開発に
取り組んでいきたい
- **私たち自身が地域のことを知り、地域の人たちにも
私たちのことを知ってもらうための活動**
地域の方々・子供たちとの交流を充実させる
- **「何が里美のためになるのか」ということを常に考えて
活動していきたい**

お世話になりました！

荷見様ご夫妻、磯部様、里美ふるさと振興公社様、常陸太田市役所少子化・人口減少対策課様、白石様、里美小・中学校様、森林組合 中野様、佐藤美咲様、佐藤みどり様、山田屋旅館 小林様、サンシャイン牧場様、里美の水プロジェクトの皆様、えみの里の皆様、ファーム&キッチン関係者の皆様、地域おこし協力隊の皆様

人文学部様、鈴木先生、笹川先生、宮本様、ICEチームの皆様

水戸農業高等学校様、JTB関東 西島様

予算のご支援をいただきました！

- 総務省「域学連携地域づくり支援事業」(2012)
- 茨城大学「教育改革推進経費」(2012)
- 総務省「過疎集落等自立再生緊急対策事業」(2013)
- 茨城大学人文学部「就業力育成小委員会予算」(2013)
- 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」(2013～2014)
- 常陸太田市役所「大学等連携事業」(2014)

皆様のご協力、ご支援のおかげで実りある活動ができました。
誠にありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました！





地域おこし協力隊について

地域おこし協力隊

- ・平成21年度から始まった総務省の事業
- ・隊員は住民票を移し、地域で1~3年間活動
- ・平成25年度隊員数は978名(318自治体)

常陸太田市地域おこし協力隊

Relier: フランス語でつなぐ・むすぶという意味

- ・県内初の協力隊
- ・清泉女子大学地球市民学科とのつながりがきっかけで誕生

水府地区

- ◎アーティスト2名
- 谷に集落
- 地区人口4,784人 1,868世帯
- 林業・タバコ・そば
- 竜神大吊橋が観光資源
- 14町会
- 高齢化率 37.7%

里美地区

- ◎協力隊2名、アーティスト1名
- 常陸太田市内から北へ約30km
- 地区人口 3,424人 1,265世帯
- 土地の85%が山林
- 9町会がある
- 高齢化率36%

金砂郷地区

- ◎協力隊1名
- 常陸太田市の西部に位置する
- 南部は米、北部は蕎麦の生産が多い
- 地区人口10,286人 3640世帯
- 24町会
- 高齢化率29.9%

平成25年度常陸太田市地域おこし協力隊に求められていた活動

【基本活動】

- 交流人口拡大の為の活動
- ・地域観光事業の推進
- ・都市との交流事業
- ・教育交流事業等の応援
- ・地場産品販売の応援

【地域定着活動】

- 隊員の個性や特技を活かした、地域に定着していくための活動
- ・地産他消推進等地域経済推進の取り組みの応援
- ・地域行事・伝統芸能等コミュニティ活動の応援
- ・その他、地域おこしに必要と思われる事業の応援

活動の上で大切にしていたこと

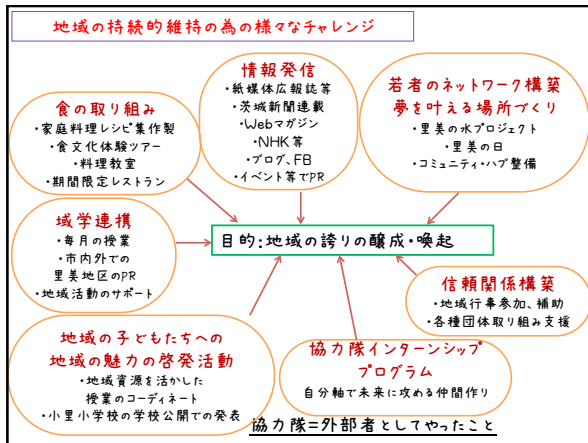
- 地域に定着すること
- 地域の人の声に耳を傾けること
- 「地域の声」を活動の軸にすること
- 地域の魅力を自分たちならではの目線で捉えること
- 地元の人自身が文化・伝統を守る、地域づくりの主力になること
- 諸々の取り組みが、協力隊制度が終了した後も継続して残っていく「仕組み」であること
- 地球市民学科での学びを活かすこと(共生の価値観、自ら考え行動する、地域・人のために働く、地球的な視野を持つ)

里美支部3年間の活動

<地域資源の発掘・利活用、情報発信、交流人口拡大>

- ①市内の地域資源の発掘・利活用
- ②地域の子ども達への里美の魅力の啓発
- ③学生を対象とした活動 城学連携
- ④食に関する取り組み
 - ・レシビ集作製・料理教室・ツアー・レストラン
- ⑤地域内ネットワーク形成
 - ・里美の夢を語る会・里美の水プロジェクト・里美の日開催
 - ・里美の休日Café等
- ⑥協力隊インターンシップによる教育プログラム
- ⑦市産品の販売を通じたPR
- ⑧地域内外への情報発信
 - ・SNS等を利用した地域内外への情報発信 例)ブログ、フェイスブック
 - ・紙媒体 例)地区内ニュースレター「つながりぼん」、茨城新聞連載
 - ・マスメディア 例)新聞各社、NHK水戸、いばキラTV

➡ **自分の地域に、誇りを持ち、豊かに暮らしていく**



協力量隊活動3年間の目的: 地域の誇りの醸成・喚起

地域の『誇り』とは？
一人ひとりが「住んでいてよかった。住み続けたい。」と思えること
暮らしていくために、地域のことに向き合っていきたい気持ち

地域の『誇り』がなぜ必要か？
『誇り』を持って地域に対して主体的に行動することで、
一人ひとりが地域で豊かに暮らし、
地域を維持するための原動力となるから

地域の『誇り』が醸成されることで待っている未来 **地域の特続的維持**
一人ひとりが地域の真の価値や可能性に気づき、
時代に合わせた文化の継承や地域を維持するための活動が地域
住民の手によって意識的に行われることで、地域内外に主体的に
地域に参画できる人が増え、住んでいてよかった、住み続けたいと
思える地域になる

地域おこし協力量隊は行政・住民のパートナー

立場
行政 協力量隊 地域住民

手段
可視化による地域資源(モノ・誇り・自信)の共有
×
自主的取組の為の素地(ヒト・コト)・きっかけづくり

協力量隊の活動はきっかけづくり

- 地域内**
 - 若い世代の横の繋がり作り
 - 新プロジェクト立ち上げ
 - 地域の魅力再確認・再発見
 - 生きがい作り
 - 未来を担う人材育成
- 地域外**
 - 地域の魅力PR
 - 知名度アップ
 - 若者への将来の選択肢の提示

成果

- 地域への誇り・自信の醸成
- 残したい未来を意識する
- 地域のファン作り
- 自分のフィールドで行動できる人材育成(地球市民)
- 新しい価値観の創出・提示

**「外部者」から「地域住民」へ
3人それぞれの切り口で地域に関わり続ける**





協力隊OGルリエ 石川の今

- ◎里山ホテル ときわ路に勤務
- ◎里美地区内に空き家を借りて暮らす

里美との関わり方

- ◎一住民として里美ライフを満喫
協力隊:里美=仕事の間=生活の間
現在:里美=生活の間
- ◎出来る範囲で協力隊時代からの活動を継続
里美の水プロジェクト
地区内のイベントへの参加
など

協力隊OGルリエ 笹川の現在

- ◎東京での暮らし
- ・立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科 在籍
ESD(持続可能な開発のための教育)を研究
- ・ESD-J 持続可能な開発のための教育の10年推進会議 に勤務

- ◎里美地区での暮らし
- ・「一住民」として里美で生活
- ・茨城大学非常勤講師
- ・里美小での地域資源を活かした授業のコーディネート
- ・常陸太田市の絵本の製作

“里美を拠点に”
様々な分野・領域で
「自分軸の確立」を目指す日々。

協力隊OGルリエ 長島の現在

- ◎暮らし:里美地区
- 協力隊から住民へ。“外部者”より少しだけ“内部者”寄りの立場に

- ◎(一社)常陸太田市観光物産協会 所属
民泊受入担当として週4日勤務
- その他、棚倉町協力隊アドバイザーや講演など、収入の得方が複数に。

◎協力隊任期中に携わった事業を継続。

里美御膳、里美の水プロジェクト、里美の日・・・



“住民”だからこそできる
立場で、
主体的に引き続き里美で
暮らし、働くコトを目指し、
活動中。



「里美」をフィールドに
「等身大の私」でチャレンジ継続中！

今年度の活動


里美地区地域おこし協力隊
磯部茉莉


お話の流れ

1. 新たなメンバーでスタート
2. 4月からのお仕事
3. 協力隊へのアドバイザー導入

1. 新たなメンバーでスタート！

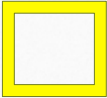
常陸太田市
地域おこし協力隊
磯部 茉莉





田中 あかね
常陸太田市
地域おこし協力隊


常陸太田
アーティスト・イン・レジデンス
なる



2. 4月からのお仕事

前任者からの引き継ぎ


- ・Facebook等のSNS
- ・ニュースレター
- ・進学支援事業
- ・エコミュージアム推進活動
- ・各イベント参加



心機一転のお仕事

- ・協力隊ホームページ作成
- ・ふるさと探検隊事業導入
- ・地域の歴史、音価調査

3. 協力隊へのアドバイザー導入



総務省のモデル事業として導入

⇒協力隊・アーティストそれぞれが目指すコンセプトを見定め、3年間のプロジェクトへと形成する。

1年目

プロジェクトの選定・宣言

➔

2年目

プロジェクト稼働開始

➔

3年目

プロジェクトを軌道確保

星美地区協働センター
〒687-0102 兵庫県淡路市星美1-1-1
活動宣言会 in 星美
星美地区協働センター・星美地区協議会

星美地区協働センター・星美地区協議会
 場所：星美地区協働センター 会議室
 時間：16:30～17:30



宣言内容
 本宣言は、星美地区協働センターが、星美地区協議会と連携し、星美地区の発展と住民の生活の向上を図ることを目的として、活動宣言を行います。

宣言内容
 1. 星美地区協働センターの役割と活動の範囲
 2. 星美地区協議会との連携と協働の推進
 3. 星美地区の発展と住民の生活の向上を図るための活動
 4. 活動宣言の趣旨と目的

星美地区協働センター
〒687-0102 兵庫県淡路市星美1-1-1
電話：079-473-2001
ファックス：079-473-2002
Eメール：hoshimi@hoshimi.or.jp

星美地区協働センター活動宣言会

本日 16:30～
こちらの会場にて開催です。
お時間に余裕のある方は、
この後の宣言会も
ぜひご清聴ください。

茨城大学「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

「茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業」

茨城大学は、文部科学省の平成26年度COC事業に採択されました。

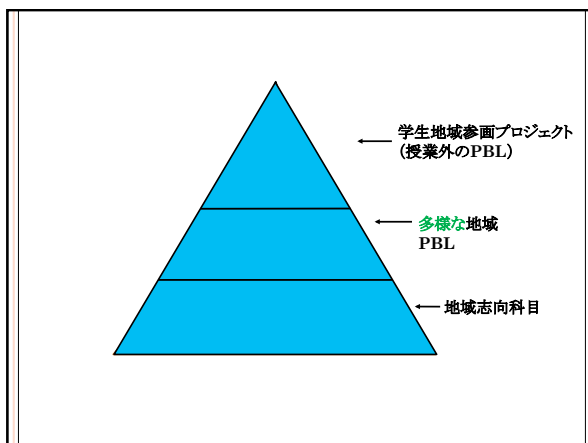
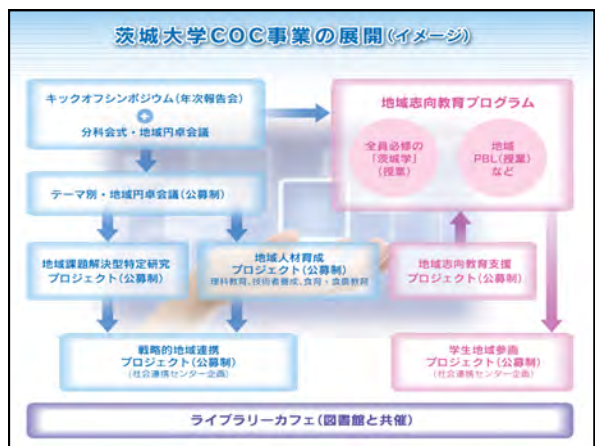
平成26年度は237件の申請から25件が採択され、茨城県では茨城大学が唯一の採択です。取組み期間は平成30年度までの5年間です。

COC事業とは:

大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とする(文部科学省HP)。

茨城大学の連携先自治体・企業等
 茨城県、水戸市、日立市、阿見町、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、東海村、大洗町、茨城町
 (株)常陽銀行、(株)筑波銀行、(株)ひたちなかテクノセンター、(公財)日立地区産業支援センター、茨城産業会議

連携先を起点に広く地域の方々と交流しながら事業を進めます。



茨城学

茨城の歴史・地理・文化・産業などの学修を通じ、学生に茨城についての理解を深めさせ、同時に地域を多角的に捉え課題を考える力を身に付けさせます。

~地域振興と世界への情報発信~

1	地域振興と世界への情報発信のための茨城学	テーマ別の教員パレード 1回の授業構成 40分の講義 ↓ 20分の学生のみまとめ(振り返り) ↓ 5分間の学生間意見交換 ↓ 25分の講師と学生のディスカッション
2	茨城の自然資源を活用した地域振興と世界への情報発信	
3	茨城の歴史と風土を活用した地域振興	
4	茨城の産業を生かした地域振興	
5	科学技術による地域振興と世界への情報発信	
6	グローバルな視野を持って地域に貢献できる人材の育成	
7	世界へ発信しよう茨城の風土と文化	
8	大学と連携した市民の活動と地域振興	
9	振り返り	
10	振り返り	
11	振り返り	
12	地域別の自治体パート	
13	地域別の自治体パート	
14	地域別の自治体パート	
15	全体のまとめ	

2学部の教員によるコラボもありえる

COC事業 学生地域交流隊

学生の学内外での活動を、学内・地域で紹介すべく、学生にシンポ、地域円卓会議、ライブリカフェに参加してほしいと考えたもの。さらなる活動につながることも期待。



茨城大学活動報告会

里川かぼちゃ焼酎と
ファーム&キッチン

里川かぼちゃ焼酎 Sake de pumpkin



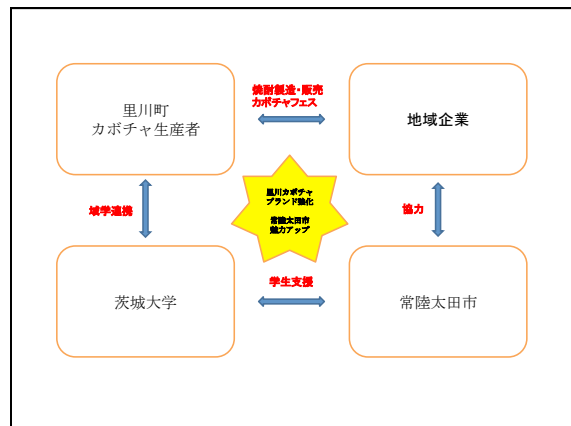
焼酎仕込 : 2013年12月
発 売 : 2014年 5月
原 料 : 500kg
販売本数 : 500本
容 量 : 500ml
売 価 : 2315円(税抜き)

【製造元】
〒313-0125 茨城県常陸太田市大里町3401
合資会社 剛烈富永酒造店
TEL:0294-76-2007 FAX:0294-76-2350

【発売元】
〒313-0006 茨城県常陸太田市宮本町331-9
合名会社 山口
TEL:0294-72-3888 FAX:0294-72-4866

かぼちゃフェス.
2014年 10月24日(金)～11月9日(日)

●期間中のかぼちゃ使用量: 約300kg 約75,000円
●期間中の販売食数: 3,220ヶ(食) 約930,000円



里川カボチャ
～おいしく魅力を引き出そう！～

茨城県立水戸農業高等学校
食品化学科
西島美紀 吉井瑞保

「初めまして～試食会までの流れ」

月 日	内 容
7月4日	茨城大学 鈴木先生と初対面・趣旨および概要説明
8月4日	茨城大学 さとみ・あいチームと初対面・活動内容説明
8月23日～25日	夏合宿に参加
9月19日	打ち合わせ2回目
9月22日	干しかぼちゃの試作開始
9月30日	かぼちゃのようかんの試作開始
10月1日	かぼちゃのタルトの試作開始1回目
10月3日	カボチャのタルトの試作 2回目
10月9日	かぼちゃのマフィン・スコーンの試作
10月10日	かぼちゃパイの試作

商品開発の難しさにぶ・つ・か・る

本当の「里川カボチャ」の魅力って…??

「…甘さ!? …色!? …何!?!」

「しさく・シサク・試作…」



「ここから選んでもらおう！」



「試食会～本番までの流れ」

10月12日	試食会（試作品：スコーン・ケンピ・タルト・パイ）
10月19日	カボチャの収穫祭へ参加
10月29日	タイの先生の特別講義（かぼちゃのデザート）
11月4日～7日	カボチャのタルトの試作
11月9日～12日	原材料の価格調査及び原価計算
11月13日	カボチャのタルト作成
11月15日～16日	茨城大学 茨苑祭 水戸農業 水農祭

「たくさんの人に出合ってね…」



「感想…」

- 入学して早々商品開発をすることになってビックリした
- 調理が好きだけでは商品開発ができないことを実感した
- 大変だったけど充実していた
- 慌ただしく過ぎて行ってしまった感じ
- とっても「甘～い」ことにびっくりした

「考察」

- アンケート調査などを実施してより具体的な結果を知る
- 里川カボチャを利用活用している企業での研修を行う
- 里川カボチャの商品開発に利用可能な食材を校内で栽培する
- 長期保存が可能な商品を開発する

野菜専攻2016プロジェクト

里川カボチャで何かする？

by農業科



茨城県立水戸農業高等学校

始めに

- ・2016（平成28）年度に農業科のルールで野菜専攻はプロジェクト発表を行う（私の着任前に決まっていた）
- ・プロジェクトを初めて行う人が中心になる

⇒来年度のうち発表スライド以外は実行したい（私自身が不慣れなので）



茨城県立水戸農業高等学校

栽培品目設定

- ・地元産品がよい（那珂カボチャはすでに園芸科でプロジェクトが行われている）
- ・できれば、市場流通していない品目

里川カボチャは

- ・地元産品
- ・市場流通には不向きな品種

⇒里川かぼちゃは条件に合致



茨城県立水戸農業高等学校

プロジェクト内容(予定)

- ・里川カボチャと他のカボチャで栽培比較
- ・栽培地での比較（里見地区と水農）

⇒収量、糖度 など

- ・コンパニオンプランツの活用による労働時間やコストの比較（麦マルチと豆類を活用）

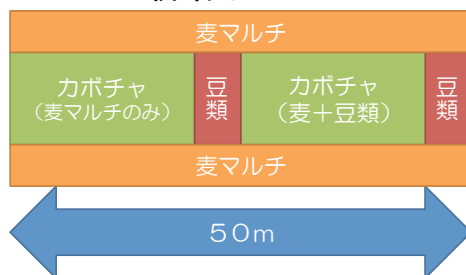
⇒労働時間、コスト、肥料・農薬の使用量

※ただし、完全有機で行う予定はない



茨城県立水戸農業高等学校

栽培イメージ

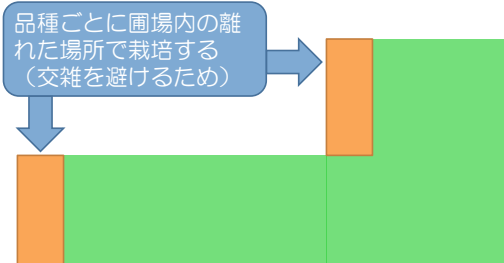


- ・圃場内に2か所作る（交雑を避けるため）



茨城県立水戸農業高等学校

圃場の配置



茨城県立水戸農業高等学校

これからの予定

1月下旬 1年生の選択者が判明
(ここでメンバーが決まる)

4月 新年度の授業開始(プロジェクト開始)



茨城県立水戸農業高等学校

よろしくお願い致します

m(_ _)m



茨城県立水戸農業高等学校